

「長野県の金融経済動向」(11月)の前回との比較

2016年11月

2016年10月

(総論)

長野県経済は、一部に弱めの動きがみられるものの、基調としては緩やかに回復している。	長野県経済は、一部に弱めの動きがみられるものの、基調としては緩やかに回復している。
---	---

(各論)

公共投資	緩やかに減少している。	緩やかに減少している。
住宅投資	持ち直しの動きがみられる。	持ち直しの動きがみられる。
設備投資	緩やかに増加しているものの、企業の投資姿勢は幾分慎重化している。	緩やかに増加しているものの、企業の投資姿勢は幾分慎重化している。
個人消費	一部に弱めの動きもみられるが、底堅く推移している。	一部に弱めの動きもみられるが、底堅く推移している。
生産	新興国経済の減速の影響などから、横ばい圏内の動きとなっている。	新興国経済の減速の影響などから、横ばい圏内の動きとなっている。
雇用・所得	全体として着実な改善が続いている。	全体として着実な改善が続いている。

1. 実体経済

(生産)

半導体関連・電子部品等	スマートフォン向けは幾分持ち直しているものの、生産用機械向けで中国など新興国経済減速の影響がみられることから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。	スマートフォン向けは幾分持ち直しているものの、生産用機械向けで中国など新興国経済減速の影響がみられることから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。
自動車関連	北米向け等の海外需要が堅調なものの、国内向けで一部に弱さがみられることから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。	北米向け等の海外需要が堅調なものの、国内向けで一部に弱さがみられることから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。
機械・同関連部品等	工作機械は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復しているものの、中国など新興国経済減速の影響がみられる。バルブも、生産は高めの水準で推移しているものの、新興国経済減速の影響などがみられる。計器も、生産は高めの水準で推移しているものの、建設機械向けを中心に新興国経済減速の影響がみられる。成形機は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復しているが、中国などのIT向けを中心に弱さがみられる。	工作機械は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復しているものの、中国など新興国経済減速の影響がみられる。バルブも、生産は高めの水準で推移しているものの、新興国経済減速の影響などがみられる。計器も、生産は高めの水準で推移しているものの、建設機械向けを中心に新興国経済減速の影響がみられる。成形機は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復している。
飲料	生産は横ばい圏内で推移している。	生産は横ばい圏内で推移している。

(個人消費)

大型小売店 売上高	9月は一部に弱さがみられるものの、底堅く推移している。	8月は一部に弱さがみられるものの、底堅く推移している。
家電販売	9月は前年を上回った。	8月は前年を下回った。
自動車販売	10月は前年を下回った。	8月は前年を下回った。

(公共・住宅投資)

公共工事請負金額	9月は県の発注分が減少したものの、国、市町村、独立行政法人等の発注分が増加したことから、全体では前年を上回った。	8月は県の発注分が増加したものの、国、市町村、独立行政法人等の発注分が減少したことから、全体では前年を下回った。
住宅着工戸数	9月は持家、分譲、貸家が増加したことから、前年を上回った。	8月は持家、分譲、貸家が増加したことから、前年を上回った。

(雇用・所得)

雇用・所得	有効求人倍率をみると、9月は新規求人数が増加したことから、上昇した。所得面では、8月は常用雇用者数が前年並みとなったものの、一人当り名目賃金が前年を下回ったことから、雇用者所得は前年を下回った。	有効求人倍率をみると、8月は新規求人数が増加したことから、上昇した。所得面では、7月は一人当り名目賃金および常用雇用者数が前年並みとなったことから、雇用者所得も前年並みとなった。
-------	---	---

(物 価)

消費者物価 (除く生鮮食品)	9月は光熱・水道や交通・通信が下落したことを主因に、前年を下回った。	8月は光熱・水道や交通・通信が下落したことを主因に、前年を下回った。
-------------------	------------------------------------	------------------------------------

2. 金 融

貸 出 金	9月は前年を上回った。企業向けは、運転資金需要が弱含んでいるものの、設備資金需要に持ち直しの動きがみられている。個人向けは、前年を上回って推移した。こうした中、貸出約定平均金利は、緩やかに低下している。	8月は前年を上回った。企業向けは、運転資金需要が弱含んでいるものの、設備資金需要に持ち直しの動きがみられている。個人向けは、前年を上回って推移した。こうした中、貸出約定平均金利は、緩やかに低下している。
預 金	9月は公金預金が前年を下回ったものの、法人預金、個人預金が前年を上回ったことにより、全体でも前年を上回った。	8月は公金預金が前年を下回ったものの、法人預金、個人預金が前年を上回ったことにより、全体でも前年を上回った。